

平成29年度評価（南町）

- ① 利用者の生きがいや、やりがいを見つけ個々の楽しみを見出す。

クッキングの継続。利用者の目的に合わせた外出を少人数で行うことで、外出の機会も増やせるようにしたい。



クッキングは何度か行ったが切り込みなど出来る方があまりおられず、職員が中心となって作ることが多かった。今後作業工程などを考慮し内容を決める必要がある。また、クッキング出来ない時期は外食の機会を設ける。

- ② 言葉使いなど接遇の徹底を行う。

基本的に敬語・丁寧語を使用することを各自意識して仕事に取り組む。但し、場の雰囲気に合わせて方言などを用い、南町の活性化に繋げたい。



スタッフ全員に丁寧語という意識はあるが余裕がない時には大きい声が出ている。また自分自身では気が付いていないことも多いのでお互いにその時に注意しあえる環境を作りたい。（※この目標はあたりまえのことでもある為、個人の目標とする）

- ③ ユニット内・他職種間での情報共有、個人のニーズを把握し介護技術を深める。

情報共有を密にすることは勿論だが伝達を確実にを行うことを意識したい。利用者の抱えている課題に対して協議し解決策を見出すことはこれまで同様積極的に行う。



ノートを活用し各自で確認してサインしているが、うまく伝わっていないことも多かった。それぞれ職員が自主的に情報収集に努めることも必要である。

- ④ 環境整備に努める。（継続）

→共有空間では行事や誕生会の時だけでなく、普段から南町らしさを感じられるような環境を作るようにする。居室については個々が責任を持って行い、個人らしさが出るようにする。



共有空間は南町らしく季節を感じられるよう工夫し環境作りが出来ていた。しかし各居室の棚の中や床灯台の掃除が全く出来ていなかった。また看取りになられた方のパジャマや肌着がそろっていないこともあった。今後、各居室担当として整備・準備をしっかりと行っていく。

- ⑤ 継続的なレクリエーションを実施する。（継続）

集団・個別問わず継続して行えるものを考案し、利用者の生活の活性化に繋げる。



レクリエーションを行っていた職員と出来ていなかった職員とバラツキが見られた。今後、レクリエーションだけに拘らず日常生活の中での訓練等にも力を入れたい。